

平成 29 年度第 1 回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成 29 年 6 月 27 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

会 場：鎌倉市役所本庁舎 4 階 402 会議室

出席者：＜委 員＞中村会長、中谷副会長、有村委員、河原委員、富田委員
牧田委員、横塚委員

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

福祉総務課長、産業振興課長、こどもみらい課担当課長、
保育課長、青少年課長、高齢者いきいき課担当課長、
ごみ減量対策課担当課長、

教育総務課担当課長、教育指導課長、教育センター所長
小学校代表校長、中学校代表校長

事務局（市民健康課）

石黒課長、河合課長補佐、三島係長、長谷川職員、浦山職員、
齋藤職員

傍聴者：なし

配付資料：

【資料 1（差替え）】第 2 期鎌倉食育推進計画の評価及び第 3 期鎌倉食育推進計画の指標案

【資料 2】アンケート年代別の質問項目一覧

【資料 3】平成 28 年度食育アンケート回収枚数

【資料 4】第 3 期鎌倉食育推進計画骨子案

【資料 5】第 3 期鎌倉食育推進計画の体系図（案）

【資料 6】第 2 期鎌倉食育推進計画行動計画平成 28 年度分実績報告

【資料 7】平成 28 年度食育アンケート集計結果

【資料 8】第 3 期鎌倉食育推進計画策定スケジュール（平成 28 年度～30 年度）
（案）

■開会

石黒課長 開会の言葉

委員 11 人のうち出席者は 7 人で過半数を超えているため、本推進会議条例
施行規則第 3 条第 2 項の規定により、会議は成立している旨、説明がなされた。

中村会長 挨拶

食事の安全教育、衛生教育が日常的に行われている日本の現状を、専門家の配置がほぼなされていないアジア諸国の現状を見る機会を経て、日本の先輩関係者、行政の努力に拠ることであると忘れてはならない。日本の文化ともいえる食育活動を諦めず続けて行きたいと考える。

■議事

1 アンケート結果について

事務局から、以下（１）～（４）の順に説明がなされた。

(1) 配布資料の確認

事務局から、配付資料【資料１】～【資料８】の確認がされた。

(2) 前回までの会議内容の振り返り

平成 18 年度に食育基本法が制定され、同年、国は第 1 期食育推進基本計画を策定し、平成 28 年度には第 3 期食育推進基本計画策定していることを受け、鎌倉市でも今年度中に第 3 期鎌倉食育推進計画を策定する。今年度は 3 回の会議を予定し、本日第 1 回会議では食育アンケート調査の結果報告とその評価について及び骨子案について議論を行う。

次回第 2 回会議（9 月 28 日予定）では、素案の内容について議論を行う。その後議会報告を経て、パブリックコメントを 1 月 9 日から 2 月 13 日迄行う予定である。

第 3 回会議（1 月 26 日予定）では、パブリックコメントの途中経過報告し、内容をほぼ確定する。最終的にはパブリックコメントを反映したものを会長に報告し確認戴いた後に確定する。

前回会議で途中段階でのアンケート結果状況報告及び第 3 期計画概要について議論を行った結果として、第 3 期鎌倉食育推進計画では第 2 期の取り組みの柱を引続き生かした体系とすること、基本施策の中には国の重点課題の視点や、第 3 期計画の評価を踏まえた視点を盛り込んで行くこととした。

k 意見として、第 1 期計画時には、これまで聞きなれない“食育”という言葉が目新しく、関心を持つ方が多かったが、今回のアンケート結果を見ると、興味関心が下がって来ているため、切り口を変えて関心を引き続けることが必要ではないか。また、毎日朝食をとることを推進していく上で、取り敢えず何かしら食べられれば良いのか、バランス良く食べることが大切とするか、条件で状況が変わるので第 3 期には明記する必要があるのでは、とのご意見があった。戴いたご意見は、素案の段階で具体的取り組み内容やコラムの中に取り込んで行く予定である。

(3) アンケート結果の説明

平成 28 年度第 2 期鎌倉食育推進計画の指標及び第 3 期鎌倉食育推進計画指標(案)に沿った質問項目でのアンケートを実施した。質問項目は【資料 2】参照。

20 歳以上の方への質問を基本項目とし、年代にそぐわない質問を削除、また表現の変更をして対応したため、年代によって質問数が異なる。回収数は【資料 3】参照。実施方法は対面式でアンケートを行った。実施場所は市内保育園、小学校、こどもの家利用者、中学校、周辺高校、本庁舎、各種イベント等である。対象者は鎌倉市在住者のみ、とした。

当初アンケート集計時目標値と直近値の比較ができるよう、目標値の年代区分に沿って数値を算出した。その結果、回収数の多かった 30 代、40 代の数値が大きく影響してしまい、60 代以上の傾向が見えにくい結果となった。そこで、直近値は【20～30 代：青年期、40～50 代：壮年期、60 代以上：高年期】での集計に改め、回収数が数値に影響しないようにした。それに合わせ計画策定時の数値も直近値と比較できるように、計画策定時の基データから【20～30 代：青年期、40～50 代：壮年期、60 代以上：高年期】として算出し直した。

以下、【資料 1 (差替え)】の上から順に結果報告した。

【資料 1】第 3 期鎌倉食育推進計画指標(案)(1)朝食を毎日摂取する市民の割合の増加 - では「ほぼ毎日食べる」人を集計した。計画策定時 16～19 歳のデータが無いのため比較は出来ないが、それ以外の年代は比較数値が出ている。改善状況は目標値を達成しているため A とする。

(2)栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加 - では「考えて食事をとっている」人を集計した。計画策定時は質問項目を「栄養成分表示を参考にしている」としていて、質問内容が違うため参考値とし、改善状況は調査方法が違うため比較不可とする。

(3)内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している市民の割合の増加 - では「適切な食事や運動をしている」人を集計した。新規項目で前回データ無いが、全年代で目標値に達せず、改善状況は C とする。

(4)よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある市民の割合の増加 - では、「関心がある」人を集計した。新規項目で前回データ無いが、全年代で目標値に達せず、改善状況は C とする。

(5)朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加 - では、「朝食／夕食を家の人と一緒に食べる」人を集計した。朝食と夕食、週各 7 回合計 14 回の食事で平均値を算出した。計画策定時は、「誰と食べているか」

の質問に対する集計のため、比較不可である。改善状況は目標値と比較して、一部年代で達成しているため **B** とする。

(6) 農水産業体験を経験した市民の割合の増加 - では、「体験したことがある」人を集計した。計画策定時は、学校毎に調査した数値を参考データとしているため比較不可である。改善状況は直近値と目標値の比較で、全年代で目標値を達成し **A** とする。

(7) 地元産食材の使用割合の増加 - では、「積極的に購入している」人を集計した。青年期から高年期にかけて降下等、改善状況は目標値に達せず **C** とする。

(8) 食育の推進に関わるボランティア数の増加 - では、鎌倉市食育ボランティア団体の会員数を集計した。573名で目標値に達せず、改善状況は **C** とする。

(9) 消費期限や賞味期限などの食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心をもっている市民の割合の増加 - では、「関心がある」人を集計した。計画策定時は消費期限や賞味期限、食品添加物、遺伝子組み換え等の食品表示、食中毒予防や農薬の利用等の食品の安全性に「関心がある」人の集計している。比較すると青年期と高年期で降下し、全年代で目標値に達せず改善状況は **C** とする。

(10) 日常生活の中で、ごみの発生抑制に取り組む市民の割合の増加 - では、「いつも、又は時々取り組んでいる」人を集計した。直近値と目標値比較では高年期以外の全年代で目標達成せず、改善状況は **B** とする。

以上が第2期指標に対するアンケート結果である。

この他に第3期策定に向けて、第2期指標に対するアンケートとは異なる質問の4項目(①~④)について以下の通り説明がなされる。同じものについては説明省略。

①(5) 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実施する市民の割合の増加 - では、「いつも気をつけている、又は気をつけている」人を集計した。国の目標値は **75%** 以上である。

②(9) 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている市民の割合の増加 - では、「受け継いでいる、又はどちらかといえば受け継いでいる人の中で、さらに、それを伝えている、又はどちらかといえば伝えている」人を集計した。国の目標は **50%** 以上である。

③(13) 食の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合の増加 - では、「判断している」人を集計した。国の目標値は **65%** 以上である。

④ (14) 食品ロス削減のために何らか取り組んでいる市民の割合の増加-では、「ある、ときどきある」と回答した人を集計した。国の目標値は80%以上である。

以上がアンケート結果である。

第2期計画評価となる改善状況のABC評価の出し方、第3次計画の指標案の内容、市の目標値については、今回と次回以降の会議でのご意見を踏まえ、内容は随時更新と検討をして行く予定である。

事務局から委員の皆様へ質問4点。

- 1 アンケートに基づく数値結果へ対する率直なご意見をお聞かせ戴きたい。
- 2 第1期の評価方法として矢印、上下の表記で表現していたものを、第2期ではABC3段階での評価としたが、指標の出し方等更に分かりやすい表現方法等があればご教授戴きたい。
- 3 第2期の評価としてC評価が5項目あるが、今後数値を上げていくために、委員の皆様の立場での改善案、市の取り組みに対するご意見などをいただきたい。
- 4 今回の数値結果と実情とは、異なる点もあるが、委員の皆様の見解をお聞かせ戴きたい。この過去5年間の食育状況の変化や、今後の取り組むべき課題等ご指摘いただきたい。

【質疑等】

横塚委員

各項目、高年齢者の数値が高く、青年期、壮年期が低いことが分かる。ここから想像するに、鎌倉から通勤、通学のため早朝に出る世代は食事の栄養バランス等を考える余裕が無く、リタイアされた高年齢世代は時間的余裕がある、と考えられる。青年期、壮年期の数値改善のためには、呼びかけだけではなく、具体的に簡単なメニューとその準備方法を提示していくことが大切である。

牧田委員

アンケート数値を良い結果と見た。栄養に関する良い教育がなされている成果とみることができる。

さらなる数値改善のためには、事業者側へ栄養に関心を向けたメニュー提供を意識する事を、同業者組合等を通じて高めていくことも必要である。また今後、包装食品には栄養表示が義務化される方向だが、お弁当等に対しては表示を免除されるようだ。詳細表示は不要でも、たんぱく質量、エネルギー量等を全体

として提示するなどの実践的な対応が必要だと感じた。

富田委員

地元産食材について、大手スーパーマーケットで取り扱いは多いが、利便性でコンビニエンスストア、ドラッグストアで野菜を購入する方も増えていると考えられる。

(9)の第2期で「消費期限や賞味期限などの食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心をもっている市民の割合の増加」とされていた点が、第3期(案)に「食の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合の増加」と変わっているが、漠然とした質問で回答し辛いのでは、と感じる。

有村委員

「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている市民の割合の増加」について、世代間で回収数が違うため比較は難しいが、高校生の数値が低い。これから自分で食事を組み立てて行く世代に、何かアドバイスできればと考える。県でも「かながわ健康プラン」を通じて主食・主菜・副菜をそろえる食事をする人の割合を増やすべく、栄養バランス指導を進めているので、当所でも共に進めて行けたら良いと感じた。

栄養成分表示について、今回表示の義務化で国を挙げての動きに、事業者の尽力のもと動いているので、是非市民の方にも活用いただきたい。保健所では消費者向けパンフレット作成など、より分かりやすく案内するため取り組んでいるが、各所と情報共有もしながら進めたい。

中谷副会長

共食の回数が想像していた数より多目の結果に率直に驚いている。

(7)「地元産(県内産を含む)食材の使用割合の増加」は、鎌倉産から地元産と範囲を広くしているにも関わらず、数値の低さが意外な印象を持つ。

C評価の「ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合の増加」ことに関して、指導の難しさを感じる。

中村会長

Cが多い印象を持つ。C評価が多いのは、前回設定した目標値との比較によるもので、国の目標値に対しては十分達成されている数値もある。低い数値結果が続くと、この行政政策を行った意味が問われる。今後目標値の設定方法を見直す必要もあるのではないか。例えば、青年期にメタボリックを考える数値

は低いのが当たり前であるが、平均化してしまっている。実現可能で妥当性のあるものとするべき。

これ以外に考えられることはあるか。

(意見なし)

では、アンケート結果については、ここまでとする。

2 第3期鎌倉食育推進計画の策定に向けて

【資料4】を参照。第2期計画と比較しながら第3期計画を表記してある。特に下線部分を確認頂くよう、以下順に説明した。

【資料4】第3期鎌倉食育推進計画骨子案について

第1章(3)「鎌倉市健康づくり計画」と「鎌倉食育推進計画」とを一体化することも視野に入れ、中間評価の年度を合わせるために3年間とした。国の第4次食育基本計画策定期と重なるため、国の動向も見ながら策定する。

第2章は今後グラフ形式で、課題と共に掲載する。

第4章(2)重点項目は、第3期計画の3年間の計画期間に合わせて、2～3項目挙げたい。内容は素案作成時に議論していく。(3)は第2期に沿った表記とする。又、市民、業者の方に積極的に活用されるようにコラム等を追加する。食生活栄養分野と被る部分については整合性を図りながら進める。

第5章(1)基本的に変更無しだが、3年計画となるため、第2期よりの継続点と、第3期の重点項目を挙げ、成果の見える取り組みとする。(3)庁内取り組み一覧を掲載すること検討中である。

【資料5】第3期鎌倉食育推進計画の体系(案)について

前会の協議会、推進委員会でのご意見を踏まえ「取り組みの柱」までは変更しない事とする。国の第3次食育基本計画で、追加、変更については「基本施策」「指標」に取り入れる。

変更や追加した箇所は次のとおりである。

- 1 「取り組みの柱－食をとおした人づくり－基本施策」(3)を変更した。
- 2 「指標」下、第2期計画より一部表現変更点と新規追加点に下線表示した。
- 3 「取り組みの柱－食をとおした健康づくり－指標」若い世代に特化した内容を入れた。“若い世代”の定義を40歳未満とすること、また表現方法を“こども期から青年期”とすることを検討中である。
- 4 「取り組みの柱－食をとおした人づくり－指標」(3)(4)新規追加した。
- 5 「取り組みの柱－食をとおした人づくり－指標」(3)(4)及び、「取り組みの柱－食からはじめる環境づくり」(1)につき、一般に解り易くするため

噛み砕いた表現に変更を検討中である。

【質疑等】

牧田委員

地元産の食材の割合について、当初より数値が下がっているが、地元産＋国内産の広い括りにしてはどうか。鎌倉野菜等は趣味的要素があるが、日常的に手軽にそろえるのが難しい。地元産だけでなく、現実的、実践的な国内産を追加した方が食育的に良いのではないか。

中谷副会長

何故この項目を入れたか、に拠る。国の指標のように“食料自給率の向上”を目的とする、なら明確だが、ここでは目的が明確でない。

牧田委員

地元産の食材を使用するとなると、一次産品に限られるためハードルが上がってしまうので、「食でつなぐ地域づくり」の項目を、より広い意味で捕らえられるように表現を検討すべきではないか。

横田委員

アンケート結果の「地元産食材の使用割合」がとても低い。これは地元産食材を購入できる場所が駅から遠く物理的に不便であること、高齢者世帯が多いことが影響していると考えられる。

富田委員

「食でつなぐ地域づくり」という観点で、多少高くても近所の商店で買い物をしようと日頃勧めているが、家族が減るなど家族形態が変化し買い物形態が変わることが、地域づくりに影響すると先のご意見から認識した。

中村会長

「取り組みの柱 - 食をとおした人づくり - 指標」(3)(4)は同内容で、ただ対象を“市民”と“若い世代”に区別しているのはなぜか。

事務局

国の指標の出し方にそろえるためにこの形としている。

【資料1】(9)を参照。国の目標値は全体で50%だが、国は青年期に特化して子育て世帯をより強化して行こうという意図があるようで、青年期に限って

は目標値を 60%以上としている。現表は国に沿って作成したが、鎌倉市でもそのようにするかは検討事項である。

富田委員

【資料5】の当該箇所は(3)が伝統的な料理や作法を継承し、伝えている市民、であり、(4)は伝統的な料理や作法を継承している若い世代とある。

中村会長

【資料1】現状値は同じ数字になのは何故か。

事務局

その数値は市の資料の誤りのため修正する。

アンケートでは「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を継承していますか」の質問に「継承している」と回答された方に対して「それを次の世代に伝えていますか」と質問している。

青年期現状値にどちらも 44.2%とあるのは【資料1 (差替え)】の表記の誤りですので、後ほど訂正版に改める。

中村会長

質問を変えた方が良いのではないか。

自分達が「伝統的な料理や作法を受け継いでいる」と、「それを次の世代へ伝えている」とでは質問内容が違うが、この質問文だとその部分が分かりにくい。さらに「伝えている」と「継承している」の表現の違いも気になる。

牧田委員

意味合いをより解り易くすべきである。

事務局

恐らく、全体向けには「伝統的な料理や作法を受け継いでいる」のパーセンテージを上げることが目標とし、特に子育て世代には「それを次の世代や地域へ伝えている」を聞いている。

中村会長

若い世代とは子育て世代の意味か。

事務局

国は若い世代を青年期として扱っている。

中村会長

そうすると、子育てをする家庭の中で、伝統的な料理や作法を伝えて下さい、という意図か。その意図は伝わっていないのでは。子育てをしない人はどうするのか。

牧田委員

小、中学生では、アンケートでは別の質問になっているのか。

事務局

小、中学生には「受け継いでいますか」の質問のみだが、「16～19歳には両方の質問したところ「それを伝えていますか」の質問の回答として「こどもがないので分からない」が多かったので、表現を改める必要があると考えている。

中村会長

他にご質問あるか。

ところで伝統的な郷土料理や作法を、みな分かるのだろうか。自身は分からないが。

他にご質問無いので、今のご意見を集約してご検討をお願いしたい。

■事務局よりの案内

【資料6】～【資料7】を配布後、訂正箇所の説明をした。

アンケート結果について、今後の新たなご意見等は7月20日（木）迄に本日配布資料最後頁のご意見用紙で郵送かFAXで、又はメール（自由書式）にてお送りいただくようお願いしたい。

今後のスケジュール【資料8】 次回、第2回鎌倉市食育推進会議は9月28日（木）開催予定。テーマは「第3期鎌倉食育推進計画 素案について」とする予定である。第3回鎌倉市食育推進会議は平成30年1月26日（金）開催予定。

【質疑等】

なし

■閉会

閉会の挨拶